

「インドにおける母と子の健康管理」体験レポート

報告者：阿部一浩（川崎市立犬蔵小学校教諭）

調査日：2006年8月2日～15日

はじめに

はじめに、花王さんとアースウォッチジャパンさんにプロジェクト参加のチャンスをいただいたことをとても感謝しています。私にとって、はじめての国際ボランティア活動であっただけでなく、夢のような体験(※1)をすることができました。また、不思議がいっぱいの国インドの現在の様子を目の当たりにする事ができました。以下はその2週間の報告です。

(※1) 村人へ HIV・AIDS に関する正しい知識を広める街頭民衆劇の前座で、時代劇の寸劇をしました。お姫様役をスタッフのマリアさんをお願いして、正義の味方が悪者からお姫様を守るという、ちゃんばらを盛り込んだ勧善懲悪の寸劇です。劇終了後、我々日本人二人は「スパースター!!、なぜかジャッキーチェーン?!」と村の子どもたちから、もの凄いサイン責め握手責めにあいました。



㊦ちゃんばらのシーンです。



㊦お姫様とのダンスシーンです。

A) インドに対する私のイメージの変容

(出発前)

- ・カレーの国
- ・インディアンの国
- ・数学、ITの国
- ・コブラのいる国
- ・カースト制、ヒンズー教、人種のるつぼ…の国。

(帰国後)

～たくさんのサプライズ～



・チェンナイ空港に夜の10時頃到着しました。この時間にも関わらず空港を出ると、待ち受けていたかのようなもの凄い人だかり。みんなしきりに声をかけてくるのですが、タミール語で全くわかりませんでした。その後も街の人の多さに驚かされました。

㊦昼過ぎの街の様子です。



・特に村の人々は写真を撮られることをもの凄く喜びます。デジカメディスプレイを見せてあげるとさらに喜ばれます。カメラをむけるとカメラ目線がかえってきます。

㊦はじめは、写真を撮ってお金を要求されるかと思い、どきどきしていました。



㊦ コーヒー(とても甘いコーヒー牛乳のようなもの)を売っていたお兄さんです。カメラ目線でした。



㊦ 世界遺産(海岸寺院)のある観光地で出会った家族です。やはり、カメラ目線でした。

- ・ 紙幣は15種類もの文字が表記されています。多言語の国でした。
- ・ 多くの人々が菜食主義で普段の食事で肉は全くでませんでした。アルコールに対して厳しくビールもなかなか手に入りませんでした。



・ つかの間の休日、スネイクパークと言うヘビとワニの動物園のようなところに行くことができました。ヘビを紹介する人がさすがにコブラの時だけは自分との距離を十分にとって客に見せていました。ただ壺からヘビが出てくるような、想像していたようなヘビ使いを職業とする人は、世界的な動物愛護の風潮から見物客も激減し、ほとんどいないようです。



・ 世界遺産を見てきました。世界遺産の石像に子どもがよじ登って遊んだり、その前で家族で弁当開きをしたり、実におおらかなお国柄でした。

㊦ 画面左で、女の子が遊んでいます。



・ 気温の高い日中はあまり外に出ないようです。道ばたの木陰で昼寝をする人の姿がたくさん見られました。涼しい夕方になるとバザールで買い物をする人が現れ、街が活気づきます。

㊦ 画面中央、横断歩道のないところをみんな平気でわたっていきます。



・ 頭のうえにたくさんのレンガを乗せて運んだり、水の入った壺(プラスチック製)を運んだり、力仕事をする女性の姿が多く見られました。

㊦ 重そうなヤシの実を運ぶ女性です。

- ・街のあちこちに映画の看板が見られます。映画は娯楽としてとても人気のようです。年間に制作される映画の本数は世界一と聞きました。スポーツはクリケットが人気のようです。宿泊先の海岸の空き地で毎日クリケットを楽しむ若者達がいきました。



・スコールのような雨をしのぐために頭にスパーの袋のようなものをかぶっている人を何人も見ました。目を疑いましたが、使えるものは工夫して使う、だんだん自然な姿に見えてきました。

㊦ バナナを売っていたおじさんです。頭にビニール袋をかぶって裸足で自転車をこいでいました。

- ・英語オンリーの生活は生まれて初めての経験でした。伝えようとする強い気持ちがあれば、中学生レベルの英語で十分に会話ができると思えました。これまた生まれて初めて外国の知り合いができました。今もメールで交流をしています。

～衣食住～

- ・私が行ったチェンナイを州都にもつタミルナードゥ州では、一般的な服装が、男性はクルタ(ゆったりしたシャツ)にルンギー(白い綿の腰巻き)、女性はサリー(色鮮やかな綿や絹の長い布を身にまとったもの)という感じです。



・カレーは日本のカレーとは別物でした。米や小麦を使って揚げたり蒸したり多種多様に手を加えた主食に、これまた多種多様なスパイスで味付けをして食べるというスタイルです。

㊦ クレープのようなものがドサと呼ばれるもので、ポピュラーな食べ物でした。



・昔ながらの竹の柱にヤシの葉っぱの屋根の家とコンクリートの家が混在していました。

㊦ 海岸沿いの漁師さん達の家です。

- ・トイレはいろいろなスタイルがありますが、水のくんであるバケツとおけが置いてあるというのが一般的なようです。おけを使って左手で水で洗い流します。ただ、今はレストランなどではほとんどのところでトイレトーパーがあります。

～ライフライン～

- ・公衆衛生が大きな問題の一つのようです。生活用水は村では井戸のようですが、街ではトラック(給水車)で街に設置された大きなタンクに運ばれるものを使います。飲料水はペットボトルの大きなものに入れられ、人力のリアカーで運ばれたものを使います。ただ、経済的にそのような生活をおくれない人たちが沢山います。下水も整っていないため雨の後の道路は捨てられたゴミと雨水が混ざってとても不衛生です。多くの野良犬野良牛が放置された生ゴミのようなものを食べている姿に、驚かされました。



- ・交通事情がもの凄いことになっています。バイクはノーヘルで、中には家族で5人乗りも見られます。バイクやリクシャー、小型乗用車からバス、トラック、人力車から牛車まで、混在するので街中でクラクションの音が鳴り響いています。



- ・プロパンガスを人力車で運ぶ様子が街のあちこちで見られました。

～宗教～



- ・お寺ではゴープラムと呼ばれる沢山の神様が彫刻で飾られた塔のようなものがよく見られます。有名なミナークシ寺院のものはその大きさに驚かされました。寺院では、ひれ伏してお祈りする信仰心の厚い姿が見られました。

- ・仏教を広めたブッダはヒンズー教の神様の一人だったようです。

～互いの文化～

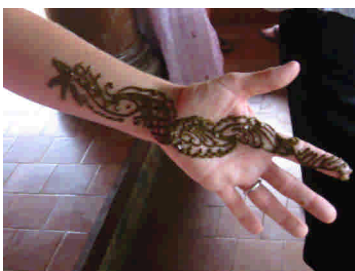
- ・日本の文化折り紙を訪問先の小・中・高等学校で紹介してきました。みんな目を輝かせて真剣に説明を聞いてくれました。



- ・玄関先には、毎朝米の粉でインスピレーションによる模様を描きます。



- ・研究者のニーシャ・バラジさんに古典楽器の演奏を教えていただきました。



- ・女性のおしゃれで、15日間色の落ちない入れ墨のような模様を楽しむものがありました。手のひらにするのが多いようです。

B) プロジェクトでの体験とそこで学んだこと

(体験)

- ・ HIV・AIDS に関する街頭劇の前座(寸劇)で、三日間に渡り、約1000もの村人の前で日本の時代劇の寸劇をしてインドと日本の国際交流に貢献することができました。
- ・ 託児所で子どもたちの身長や体重をはかったり、いっしょにお絵かきをしたり、託児所の先生方に折り紙で折り鶴の折り方を教えたりする事ができました。
- ・ 地元の公立の中学生に簡単なかぶとや鶴など折り紙を教えることができました。
- ・ 2週間(比較的長い期間)生活することでインドの現在の社会の様子を見たり、感じたりすることができました。

(学んだこと)

- ・ HIV・AIDS に関する街頭劇をおこなって、エイズ問題について国の問題として防止策について考えているナラムダナのスタッフの思いを知ることができました。
- ・ 自国を離れることで、気候、生活様式、宗教、民族、言語・・・など、日本とインドの違いを考えることができました。
- ・ インドにおける公教育の様子を知ることができました。

C) 今回の体験が学校教育にどのような意味を持つか

- ・ 小学校でも国際理解について、ALT や留学生との交流会などに取り組んでいます。しかし、簡単な英会話や一部の国の学生さんとのあいさつ程度の交流にとどまっています。また、他国の現在の様子についてパソコンなどで情報としては入手することができますが、実感を伴った学習を進めることはとても難しいと思います。今回様々なサプライズな体験をさせていただいたことをもとに、自分自身が驚いたこと、不思議に感じたことを多数デジカメの画像に納めてきたので、それらをクイズ形式で日本の子どもたちに紹介していきたいと考えています。自分たちの当たり前が外国では、また、世界中ではもしかしたら決して当たり前ではないのかもしれないことに、子どもたちの感性はいい意味で大きく揺さぶられると思います。

D) 来年のフェローシップ開催について

- ・ インドのプロジェクトは、科学的な国際ボランティアという意味合いは、他のプロジェクトより若干薄いかもしれませんが、「アースウォッチ」という意味でまさにとても魅力的なプログラムではないかと思えます。是非、もっと多くの教員にこのような機会を与えていただきたいと思います。



みなさん、本当に有り難うございました。